

温室効果とは

地球の大気には二酸化炭素などの温室効果ガスと呼ばれる気体がわずかに含まれています。これらの気体は赤外線を吸収し、再び放出する性質があります。この性質のため、太陽からの光で暖められた地球の表面から地球の外に向かう赤外線の多くが、熱として大気に蓄積され、再び地球の表面に戻ってきます。この戻ってきた赤外線が、地球の表面付近の大気を暖めます。これを温室効果と呼びます。

温室効果が無い場合の地球の表面の温度は氷点下 19 と見積もられていますが、温室効果のために現在の世界の平均気温はおよそ 14 となっています。

大気中の温室効果ガスが増えると温室効果が強まり、地球の表面の気温が高くなります。



温室効果の模式図